

初代会長の紹介

かな やま ど しゅう

金山土洲



静岡県

日本・オーストラリア協会

日本・ニュージーランド協会

初代会長は、昭和18年静岡県浜松市に生まれる。

静岡県日本・オーストラリア協会、日本・ニュージーランド協会の会長は、現在は、二代目会長大橋千秋であるが初代会長は、著名な書家であり芸術家の金山土洲氏である。土洲氏は、昭和43年日本書芸院展漢字部一科推薦賞を受賞し、昭和47年には、近代詩文二科推薦賞受賞、昭和57年に日本書芸院大賞受賞後、第15回、17回の日展に入賞するなどの活躍をしている。数々の受賞と同時に60数回の個展をオーストラリア、フランス、アメリカなどで行い、国内でも各地で開催している。

芸術をもって日本、オーストラリア、ニュージーランドetcの架け橋となっている。

昭和61年中央書壇の道をはなれ、ひとり「書の道」を求道し、道と心を極めんとしている。現、大橋会長も武道家であり「求道即ち是、道なり」とお互いにつながるところがあり、尊敬の念を抱いている。

心にしみわたる書

ふと、やすらぎを感じるときがある。きしんだ心の波紋が、すっと消えるときがある。土洲氏の書に接するときがそれである。私は書の世界については、なんの造詣もない。あるとすれば、書とは白と黒の固く、冷たく、窮屈なイメージのみである。そこに美の表現は感じて、心にしみこむ何かを感じ得ないのは、私の見る目の乏しさだけでは決してないと思う。

折りにふれて氏の作品に接し続けてきたわけであるが、あたらしい作品に接するたびにハッと引き込まれ、暖かさの余韻の波紋が心にしみわたってくる。

児童文学作家 坂本 清

